

令和7年9月 牧之原市議会定例会 行政報告

令和7年市議会9月定例会の開会にあたり、各施策の取組状況につきまして報告いたします。

最初に、「全国茶品評会出品茶審査会における産地賞受賞」についてであります。

全国一の茶産地を決める第79回全国茶品評会出品茶審査会が、8月26日から4日間にわたり奈良県奈良市で開催され、深蒸し煎茶の部で、本市が見事に産地賞を受賞いたしました。

上位5点のうち4点を牧之原市が占めており、改めて静岡牧之原茶が「味と品質日本一」であることが立証されました。

同賞の受賞は6年ぶり3回目であり、これも、生産者の皆様が切磋琢磨して品質向上に努めてきた賜物であり、改めて関係各位の御努力に感謝申し上げます。

市制施行20周年という記念すべき年に産地賞を受賞できたことは、今後の茶業振興の大きな励みになりますので、今後も「味と品質日本一の茶産地」を維持できるよう、関係者と共に取り組んでまいります。

次に、「津波警報」の対応についてであります。

7月30日に、カムチャツカ半島付近で発生したマグニチュード8.7の地震に伴い、午前8時38分に津波注意報が発表されたことを受け、市では、速やかに海水浴場及び市内7箇所の水門の閉鎖を行いました。

午前9時40分に津波警報が発表されましたので、沿岸部14地区の11,181世帯、26,850人を対象に避難指示を発令し、陸閘を閉鎖するとともに、第一波到着予想時刻の11時30分まで10分おきに同報無線にて避難を呼びかけました。市が開設した5カ所の避難所には411人が避難されたほか、各地区の避難地や高台などへ避難された方も相当数いたものと認識しております。

同日の午後6時30分には津波注意報へと切り替わり、翌日の午前10時45分には津波注意報が解除されたことから、同時刻をもって職員の配備体制も解除いたしました。

幸いにも、想定された津波は来ず、市内における人的被害はありませんでしたが、突然発生する災害へのスピード感のある対応と、市民の避難意識の向上が重要であると再確認いたしましたので、引き続き防災意識向上に向けた取組及び安心安全の確保に繋がる事業の推進に努めてまいります。

海水浴場につきましては、静波海水浴場、さがらサンビーチともに、7月18日の海開き直後は天候にも恵まれ、多くの海水浴客で賑わっておりましたが、その後の連日による猛暑で外出を控える傾向が高まったことや、台風接近による遊泳禁止や遊泳注意の日が続いたこと、カムチャツカ半島付近での地震に伴う津波警報の発表により、来場者数が伸び悩み、昨年度の5割程度となる約7万4,000人となりました。

一方、海開きと同時にスタートいたしましたRIDE ON MAKINOHARA誘客キャンペーンにつきましては、昨年度スタートしたスポーツ合宿補助金との併用が可能なことから、宿泊事業者からは「両制度の相乗効果により、宿泊数の伸びに繋がっている」との声を伺っております。

引き続き、沿岸部活性化などの取組を推進し、魅力ある海水浴場の運営を行うとともに、スポーツ、体験などの観光コンテンツの充実による交流人口、関係人口の確保を進めてまいります。

「伊藤園お〜いお茶杯第66期王位戦」につきましては、第6局が、9月9日、10日の2日間にわたり、3年ぶりに平田寺で開催されます。藤井王位が3勝と6連覇に王手をかけており、熱戦に決着がつく可能性がある注目の一局となります。

前日の8日には前夜祭、10日には大盤解説会を開催いたしますので、市内外から多くの方に御来場いただき、盛大に開催できるよう取り組んでまいります。

王位戦の開催に先立ち、8月16日には、「第4回牧之原市将棋大会」を開催し、杏林堂杯子ども将棋大会に市内外の小学生27人、山川泰熙四段及び本市出身で静岡まきのはら大使の加藤桃子女流四段との指導対局に16人が参加し、白熱した対局を繰り広げました。

決勝戦及び3位決定戦については、第63期王位戦第5局、そして今回の第6局の会場であります平田寺で初めて実施いたしましたので、参加した子どもたちには特別な体験、思い出を提供できたものと考えております。

また、地産地消の促進や市内飲食店の振興等を図るとともに、王位戦における勝負メシとしての提供も見据えて実施いたしました「まきのはらグルメ」につきましては、過去最多の応募となっており、各飲食店が趣向を凝らした豊富なメニューを勝負メシとして提供することで、藤井王位、永瀬九段の真剣勝負を「食」の面からも応援してまいります。

引き続き「将棋によるまちづくり」に係る取組との連携や、道の駅における特設コーナーの設置などを通して、本市の「食」の魅力を全国に発信するとともに、地域経済の活性化に繋げてまいります。

地場産品の販路拡大や市の歳入確保を目的として行うふるさと納税につきましては、更なる寄附額の増加を目指し、本年度から中間事業者を変更し、返礼品のブラッシュアップや新規開発を行っております。

その結果、4月から7月の寄附額が前年度比約2倍の1億7,246万円となり、これは本年度の寄附目標額である7億円達成に向けたペースを大幅に上回っておりますので、補正予算において歳入額を9億円と見込みました。

今後も、返礼品の更なる充実を図るとともに、本市のPRを効果的に行い、寄附額の増加を目指してまいります。

次に「戦略1 富士山型ネットワークの充実」についてであります。

東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側地区における開発につきましては、土地区画整理組合が行う道路や調整池、宅地等の造成工事が完成し、今年 28 日には竣工式を予定しております。

また、商業・産業街区内の保留地につきましては、今後、大和ハウス工業株式会社と売買契約を締結し、年内を目途に引渡しを完了する計画としております。

令和9年度のまちびらきに向け、公園、バス停等の整備に取り組むとともに、商業、産業施設等の早期の設置を促してまいります。

7月18日に開駅いたしました道の駅「そらっと牧之原」につきましては、お茶などの特産品を活用したオリジナルメニューが好評で、全国各地から多くの方に訪れていただいております。8月の夏休み期間中も平日休日を問わず大盛況で、売上げにつきましても当初の想定の4倍と聞いております。

また、道の駅への来場をきっかけに、市内で飲食や買い物をされる方もおり、開駅による相乗効果も生まれております。

引き続き、地域活性化の拠点、「食のテーマパーク」として更なる活用を進めるとともに、何度も訪れていただける魅力ある施設となるよう、指定管理者と共に取り組んでまいります。

静岡空港又は道の駅を発着点とする新たな交通サービスとして、通常のタクシーよりも安価に乗車できる「静岡空港・道の駅定額タクシー運行事業」を計画しております。

市民の利用はもちろんですが、コロナ禍前の賑わいを取り戻しつつある静岡空港からの市内への誘客を促進するきっかけとなるよう、広く周知してまいります。

また、民間事業者が事業主体となって行う、静岡空港、道の駅、グリンピア牧之原と、御前崎市のなぶら館を巡回するバスの実証実験が、国土交通省の「令和7年度 交通空白 解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」の共創モデル実証運行事業に採択されました。

12月からの実証実験開始に向け、引き続き関係者と協議を進めてまいります。

15kmの海岸線の魅力を活かした沿岸部の活性化につきましては、各海岸の特徴を活かし、通年での賑わいが創出できるよう取り組んでまいります。

その中で、静波地区については、エリア内の周遊に向けたモビリティや観光DXの導入、拠点となる公共エリアの計画づくりに係る経費を、補正予算に計上させていただいております。

また、相良地区、地頭方地区についても、各地域の特徴を活かした魅力的なエリアとなるよう、関係者と連携して具体的なエリア構想の作成に向け取り組んでまいります。

大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」を活用した取組につきましては、6月7日に開催した「田沼親子お国入り！スペシャルトークショー in 牧之原」が、NHKの番組やインターネット配信記事で取り上げられ、「田沼意次侯ゆかりのまち・牧之原市」を日本全国にPRすることができました。

史料館において開催しております「田沼意次の新時代展」及び「大河ドラマ展」における来館者についても、8月10日には40,000人を達成し、現在も目標の50,000人に向けて順調に増加しております。

今月17日からは、撮影で使用された衣装や小道具など、2回目の展示替えを行う予定ですので、来館者の更なる増加に向け、周知を行ってまいります。

また、松平定信ゆかりの地であります福島県白河市と連携した限定記念御城印の発行や、市内の周遊を促進する第2弾デジタルスタンプラリーを実施するなど、本市の魅力を知っていただく機会を提供することで、「田沼意次侯ゆかりのまち・牧之原市」の更なるPR及び交流人口の増加に繋げてまいります。

次に「戦略2 ゼロカーボンと経済成長の好循環の実現」についてであります。

オーガニックまきのはら推進事業につきましては、これまで「波乗りレモン部会」と「早生樹・バイオ炭部会」を設立し、それぞれでの取組を進めております。

「早生樹・バイオ炭部会」については、本年1月7日にバイオ炭のJクレジット認証を受けたことから、カーボンクレジットを買い取っていただけるパートナーの開拓を進めるとともに、効率的な作業手順によるカーボンクレジットの創出に向け取り組んでまいります。

「波乗りレモン部会」については、6市1町の農業者による組織を主体として、ニーズを満たす生産量の確保や、波乗りレモンを使った新たなコラボ商品の展開などを進めております。

また、茶の複合経営支援につきましては、収益が見込まれ、比較的農作業がしやすい季節に収穫の時期を迎えるレモンなどを主として、年度当初から多くの要望が寄せられておりますことから、補正予算に必要な経費を計上しております。

引き続き、オーガニックまきのはら推進事業とも連携し、荒廃茶園の活用及びレモンなどの高収益作物への転換を支援し、本市の基幹産業であります茶業の経営安定に繋げてまいります。

本年度で第4回となる「牧之原市チャレンジビジネスコンテスト」につきましては、いずれも過去最多の31社からの協賛、国内外を含めた168社からの応募があり、注目度の高さを感じております。

8月26日にい～らにて表彰式を行い、ダンゴムシを活用して有機肥料をつくる静岡市の^ロr^リo^リl^リy^リ-^ポp^リo^リl^リy^リ ^オO^リr^リg^リa^リn^リi^リc^リsが大賞を受賞されました。また、当日

は、第2回応募事業者による市制施行20周年を記念した映像コンテストも行われるなど、第3回までの応募総数373件のうち、11のプランが市内で稼働しており、その他にも10社以上が市内での創業に向け準備を進めております。

今年度に応募いただいたプランも含め、引き続き積極的な支援に努め、事業プランの具現化に繋げてまいります。

市内中小企業などにおける採用力の強化を目的に、県、市、企業の三者が連携した「奨学金返還支援事業」を計画しており、従業員が返還する奨学金について、県、市、企業がそれぞれ6分の1ずつ、年額4万円を上限に支援いたします。

若者の市内企業への就業支援及び当市への移住・定住に繋がるよう、おかえりプロジェクトへの協力事業所をはじめ、市内中小企業等へ制度の周知を図ってまいります。

次に「戦略3 日本一女性にやさしいまちの推進」についてであります。

女性が働きやすい職場環境づくりにつきましては、市内10社と共に、女性が個性や能力を發揮でき、生活や子育てなどと両立できる働き方を企業と行政が連携して取り組むことを共同発表いたしました。

また、当日は内閣官房から紹介を受けた有識者を招き、取組の柱である男性の育児家事参画に関して、制度面の充実だけでなく意識改革の必要性を学ぶ講演会も実施いたしました。

今回の共同発表を新たなスタートとし、従業員に向けた出前講座や関係者を集めた講演会を行うなど、若者や女性に選ばれる市及び企業となるよう、相互に連携を図りながら取組を進めてまいります。

女性の趣味や特技を活かしたスモールビジネスを支援する「月3万円ビジネス」につきましては、現在、第3期の受講生がビジネスモデルの創出に向け取り組んでおり、今月26日には地域の方々に向けたプレゼン大会が行われる予定となっております。

また、卒業生についても、各自のビジネスやサークルを通じて、市内の様々な場所でマルシェなどを開催し、継続した活動を行っております。

今後も、当事業を通して、地域における女性の活躍の場の創出に取り組んでまいります。

食料品やエネルギー価格等の物価高騰の影響が大きい中、18歳以下の子どもを養育する世帯を支援するため、「まきペイ」ポイントにて、一人当たり3,500ポイントを支給いたしました。

「まきペイ」を活用したことで、ポイント還元キャンペーンとの相乗効果による給付ポイント以上の支援へと繋がるとともに、市内経済の活性化にも寄与できたものと考えております。

引き続き、国の交付金等を効果的に活用するなど、物価高騰による影響を受ける市

民の皆様や市内事業者への支援を実施してまいります。

次に「戦略4 DXの推進」についてであります。

エネルギー価格や物価の高騰により、大きな影響を受けている市民の消費喚起と売上げが減少している市内店舗等の支援を図るため、昨年度に続き、「まきペイ」ポイント還元キャンペーンを8月1日からスタートいたしました。

今回のキャンペーンに合わせて、口座連携やカードの導入によるチャージ方法の見直しを行うなど、利便性向上に向けた改善を行っております。

10月にも第2弾を控えておりますので、利用者の増加に向け更なる周知を図り、市内での消費促進及び地域経済の発展を図ってまいります。

公共施設予約システムにつきましては、7月に公募型プロポーザルによる業者選定を行い、8月1日に構築業務の委託契約を締結いたしました。

今後は、庁内で各施設の貸出しルールを整理した上で、システムの構築作業を進めてまいります。

また、予約システムの導入に合わせて、施設における通信環境の向上を図るため、榛原文化センター、相良総合センターい〜ら及び図書交流館いこっとへ、Wi-Fi環境の整備を計画しております。

現在も学習や各種講座などで多くの方に利用いただいておりますが、より快適な環境となるよう、引き続き利便性の向上に取り組んでまいります。

デジタルデバイドの解消に向けた取組といたしまして、国のデジタル活用支援推進事業を活用し、12月以降に通信事業者によるスマホ講座の実施を予定しております。

スマートフォンの基本的な操作やLINEの使い方、インターネットを安心安全に利用するための正しい知識など、複数のメニューから選べる形で開催することで、誰もが安心してデジタルサービスを受けることができる環境整備に努めてまいります。

次に「戦略5 次代を切り拓く力を育む新たな学校づくり」についてであります。

義務教育学校の整備につきましては、榛原地域は、学校施設の基本設計の参考とするため、子どもや教職員等との様々な対話を実施しており、相良地域は、造成工事に伴う許認可及び関係機関との協議を進めるとともに、埋蔵文化財の発掘調査を予定しております。

新たな学校づくりに関しては、今年度の市民トークにおいて、重点施策として丁寧に説明を行ってまいりました。引き続き、勉強会の開催、イベント時のPR活動や広報紙による周知のほか、ホームページなどでの分かりやすい情報発信に努め、着実に事業を進めてまいります。

2期目の市政運営におきましては、第3次総合計画に基づき、高台開発の推進、多

目的体育館や道の駅「そらっと牧之原」の整備、学校再編の推進などのプロジェクトを着実に実行し、ほぼ想定通り事業を進捗することができました。

今後におきましても、あと1年半を残しております前期基本計画、その後の4年間の計画期間とする後期基本計画を含めた第3次総合計画の実現を図り、未来に希望の持てる持続性のある市政運営の実現に向け、引き続き全力で取り組んでまいりる覚悟がありますので、市議会の皆様、市民の皆様にも、更なる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告とさせていただきます。

令和7年9月1日

牧之原市長 杉本 基久雄